

令和 6 年度第 3 回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和 6 年 8 月 15 日（木）10：00～12：05

場 所：TAMA 女性センター 活動交流室

出席委員：中島康予委員、木本喜美子委員、神子島健委員、鈴木景子委員、島田直広委員、高井雅秀委員 本間まり子委員（会長・副会長以下 50 音順）

欠席委員：木村有希委員

事務局：古谷部長、西村課長、武井係長、米山主任

傍聴者：5 名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

1 開会

2 議題

（1） [報告] 令和 6 年度第 2 回多摩市男女平等参画推進審議会要点録の確認について
◇修正ある場合は、8 月 23 日までにメールでお知らせいただきたい。今後いただいた
ご意見を反映した後、要点録を確定させていただく。要点録はホームページ等で公表
する。

○誤字だが、2 頁目下から 14 行目の「悩み抱えている世代」とあるが、「悩みを抱え
ている世代」にご修正をお願いしたい。

◇承知した。

（後日、修正・追加無しで要点録を確定した。）

（2） [協議] 令和 5 年度 第 4 次多摩市女と男がともに生きる行動計画推進状況外部評
価について

◇事務局から第 2 回審議会（7/25 開催）での審議を受けて、令和 5 年度第 4 次多摩
市女と男がともに生きる行動計画推進状況外部評価修正案について説明

【質疑応答】

○今ご説明を頂いたが、進め方としては項目ごとに確認をし、仮の確定をして最後まで
審議を進め、必要があればまた戻るというような形で進めさせて頂きたい。まず序章
からお願いしたい。

○「令和5年度」についての評価という事だが、そのすぐそばの記載には「令和6年」の記載があり、記載ミスのようにみえるが。

◎過年度の評価であることを強調して、上から6行目「考察できる年です。」を「考察できる年でした。」と過去形にしてはどうか。

〔委員一同：異議なし〕

◎続きは特に問題ないか。続いて、「1 評価の概要について」に入る。評価として①から③の観点からの評価としたいが、いかがか。

○「①情報発信のアウトリーチについて」は「①情報発信のアウトリーチについて」ではないか。

◇承知した。

◎それでは、題名についてはそれぞれの項目に入ってからまた戻ってきたいと思う。「2 評価の結果 ①情報発信のアウトリーチについて」に入る。

◇基本的には、委員には、メールで大きな修正の意見等は頂いていないので、おおむねこの内容でよろしいかと考えている。

◇事務局から、委員からの修正点などについて説明

〔委員一同：了承〕

◎それでは、「②市の行政委員会、附属機関等における女性印の比率について」に入る。

◇事務局から、委員からの修正点などについて説明

○②上から4行目「女性リーダー層がまだ不足して言う」を「女性リーダー層がまだ不足している」に修正していただきたい。

◇承知した。

○②の頁下から8行目「武力攻撃事態等における国民の保護のための対策」の記載だが、少々違和感がある。

○これまで武力攻撃などについて審議会で議論したことはないが。

◇前段の「国民保護協議会」と「防災会議」の要綱に記載の設置目的から引用させて頂いた。

○「防災対策関係の～」と前後を入れ替えたらどうか。

○修正前の記載「緊急時の国民保護」と戻した方がいいのではないか。

○「国民」だけではなく「住民」の記載を入れる方が自治体としてふさわしいのではないか。

◎委員の皆様の意見をまとめ、「緊急時の国民・住民保護のための対策」としてはどうか。

[委員一同：異議なし]

◇国民保護の関係だが、多摩市防災計画では外国人への適用もあるという記載であるので、一応申し添える。

◎では、「③女性リーダーの育成について」の審議に入る。

◇タイトルが2つ並列であるのは、この後の議論を踏まえて決定をして頂くため、提案である。箇条書きの部分も、審議を経て文章を整えたいと考えているので、掲載の乱れについてはご理解頂きたい。

◇事務局から「（案1）③地域・市民活動における女性リーダーの育成について」「（案2）③災害対策における女性リーダーの育成について」説明

○前回審議会でのタイトルは「防災対策」という事だったが、今回、修正案において、両案とも「災害対策」と表記が変更されている。「防災対策」と言うと「災害対策」より意味が狭くなるので、こちらの方が相応しいかと思う。「資料3」に添付しして頂いた2019年の提言だが、2頁目に「女性の視点」についての記載があり、「女性が災害弱者となりやすい」「災害時のケアの役割」を担いやすい側面もありながら、広域の災害が起きた時に、多摩市だけでなく、その近隣で被災した地域を支援する際にも、「地域のことを熟知」している女性の視点が非常に重要だし、そこで、このリーダーを担える人を育てていくということも、重要な意味を持っているので、「防災」というより、さらに広く支援も含めた「災害対策」という観点で議論するべきではないかと思う。

○案1と2の関係性だが、案1は市政全般における、あるいは市民生活全般における女性リーダーを育成していく、その素材もまだ把握十分できていないというところを何とかせねばという問題がある。災害の問題だけではなく、全般的な課題として、1歩でも2歩でも踏み出さなければならない、というのが提言内容だったと思う。そこを引き継いで、特に女性センターが果たすべき役割ということをもっと具体化させていくということは、どうしても必要である。それと同時に、南海トラフ地震がタイムリーであるが、今後どうなるかという、この週末の台風の影響も含めてだが、本当に凶暴な自然の状態に晒されている中で、特に災害対策ということは本当に緊急性が高いし、被害も甚大であり身に迫る課題であるので、こちらの課題について女性リーダ

一を育てましょう、という中期的な課題があると思う。こちらは、関連させるというより、切り離して議論をするべきかと思う。

○案3を作るということか。

○それについては迷いがあるが、女性リーダー一般の話に留めるのではなくて、平成30年の提言に立ち戻りながら外部評価を行い、関連部局にそれを思い起こしてもらって、進めてもらいたいと思うが。

○令和2年5月に男女共同参画局で策定された「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」の改訂作業に携わったが、災害対策というか、むしろ「復興」に力を入れていた。特に仙台の方で市民女性グループがあり、女性リーダーの育成や災害対策の強化について力を入れておられた。このカテゴリだと、「防災リーダー」の育成の中に女性も入れましょう、いうのは今までと変わらないので、違う側面を入れたい。

○女性リーダー育成全般について謳うのは当然として、そこにさらに災害対策における女性リーダーの育成に焦点を当てていくべきではないかと思う。先進自治体の例も示したい。

○先進自治体の好事例を踏まえながら、できるのであれば連携しながら、例えばその他の自治体の審議会等とも話はできるかどうかは分からぬが、多摩市オリジナルの災害対策の女性リーダーを育成していきたいという形で進めていけたらよいのではないかと考えたが。

○事業番号50「地域・市民活動における女性リーダーの育成」だが、こちらも「D」評価が続いている。

○大項目としては、地城市民活動における女性リーダーの育成として、その項目の中の小項目で、特に災害対策における女性リーダーの育成っていう風に、項目の中に小さい項目を入れるっていうのがいいのかなと。その3-1とか3-2とか、小さい項目を設けて、そこに災害対策における女性リーダーの育成っていうのを記載するのはどうか。そうすると、全体が女性リーダーの育成なんだけれども、その中でも災害対策の女性リーダーの育成がさらに強化されるっていう風な見え方としてなると思います。

○あえて反対したい。地域に全体的な女性リーダーを育てようということ自体は確かに異論は全くないが、特に地城市民社会における女性リーダーとは、何を指してるので分かりにくいように思う。既に地域の中で、消費者団体連絡会やお祭りなども、主婦の方が結局担い手で会長をしていることが多いので。

- 確かに、俗にいう女性リーダーというのは、日頃足りないように感じない一方で、災害対策については、どう見ても明らかに足りてないことははっきりしているし、中長期的にも短期的にも求められていると思う。
- ②の行政委員会等の女性委員比率の議論でも、女性リーダーの不足についての記載が記述されているので、③は各論として防災対策における女性リーダーに絞った方がインパクトがあるのではないか。地震などタイムリーである。
- あえてまた、反対意見を申し上げると、「BCP（災害時等の事業継続計画（Business Continuity Plan））についてはどうお考えか。もちろん女性リーダー育成も大切だが、一流の人材を充てて災害もなく何の仕事もない、という状況も考えられる。
- 災害対策の中に女性支援のステップがどれだけ組み込んでいるか、というその問いかけが重要だと思うが。なので、文脈的には女性リーダー育成をまずやりましょうね、ではなくて、災害時の対応をどうするのか、きちんと女性の視点が生かされたものになっているのかという、平成30年度の提言を活かす形で、この提言を5年間で関係部署はどう受け止めて、どう進めてくれたのかという所を示す方が良いと思う。提言では、その際に、じやあ女性センターは、災害時にどのような役割を果たすべきかという事を、かなり踏み込んで記載している。発災後72時間以内の体制どうするか、ということも含めて。防災関係の部署だけではなくて、女性センターもそれを受け立たなきやいけないのは同じ立場と思う。最後まとめる際に、女性リーダーを全般的にどの分野でも増やす必要がありますと持っていくとすると、特に、先ほど申し上げたが、ポテンシャルの部分、NPOとの協働だとか、そのような人たちの活動の後押しをする。手を挙げた方に種を巻き育てていきましょう、というのが提言で私たちが提案したことである。女性センターには負担をかけるが、認知度を向上させながら、そこは1歩も2歩も進めて頂きたい。
- 災害がない時に、女性リーダーは暇になるのではなくて、災害がない時こそに、行政に新たな提案を投げかけたり、リーダーたちの間で勉強会して継続することで、福島等、女性部隊が活性化されている事例も伺っている。
- 世田谷区の男女共同参画センターの「らぶらす」では、女性防災コーディネーターの育成について力を入れている。「HUG（ハグ）（※避難所運営ゲームの略。発災時における避難所運営を考えるためのひとつのアプローチとして静岡県が開発。次々に訪れる避難者情報の書かれたカードの配置や避難所で起こるイベントにどのように対応していくかを模擬体験する防災ゲーム）」という避難所運営ゲームがあるが、「世田谷版HUG」が、多様な避難者（障害者や外国人、妊産婦、性的マイノリティの方など）への配慮や避難所運営における役割固定化の防止等に関する要素を更に加えるこ

とで、世田谷区のオリジナルバージョンのゲームとなっている。その作成に「らぶらす」が関わっている。

○多摩市は、数少ない「女性」の名を冠しているセンターなので、TAMA女性センターでそのような育成をするということは賛成である。

◎タイトルとしては、「③女性の視点に立った災害対策と、女性センターの役割」としてよろしいか。

[委員一同：異議なし]

◇委員からこれから具体的なご提案を頂くにあたり、事前に防災安全課にヒアリングを行ったので、情報としてお伝えしたい。まず、市民防災リーダーの育成については、すでに実施をしている所である。墨田区や世田谷区の女性に特化した防災リーダー育成の講座についても、勉強はしている所だが、多摩市的人口規模で、女性のみに対象者を絞ると、参加者の人数がかなり少なくなるということが課題となっている。多摩市の規模の自治体で防災リーダー研修を行うには、やはり男女混合という形に落ち着くということは伺っている。また、女性の視点をどのように防災に取り入れるということだが、現在は防災安全課に女性職員の配置がない状況の中で、防災安全課として人事的な要求はしている所だが、防災備蓄品の内容などは、女性消防団にヒアリングを行い、生理用品の種類など参考にさせて頂いているところである。また、多摩市の地区ごとに防災組織があるが、既にその中に女性がリーダーになっている地区もあるので、そちらの方からも意見をもらって、防災の対策、備蓄品のセレクトなどに活かしているということである。あとは、女性センターと防災安全課との共催事業として、年に1度市民防災講座を行っている。女性センターとしては、なるべく女性の視点を取り入れていただくことへのお願いをしているところと、子育て中の方が参加しやすいように、講演中の当日保育のサービスを行っている。併せて、女性センターも年に1度、女性と防災に焦点を当てた市民講座を、防災安全課との共済事業として実施している。職員の配置については、必ずしも、防災安全課の職員として、女性が存在していなくても、女性の意見を汲み上げる仕組みはすでにあるといえるのかもしれない。

○それとこれとは別問題なので、女性職員の人員要求については継続してもらいたいが。

◇ずっと女性職員の配置がないわけではなく、小さな規模の自治体の人員配置の組み合わせで、一時的に不在となっている側面がある。

○貴重な情報を調べて頂き有難い。先ほどの、女性リーダー養成講座に参加者が集まらないと、それであればどういう工夫ができるか、男女がバランスよくみんなが参加で

きるかということを工夫してほしいと。その評価の1つとして我々がお話をさせていただけたら、それが1番いいのかな、この中で謳えたらいいのかなと。はっきりと課題も見えたところである。

○地域のリーダーとして、多摩市の女性たちが既に着いているようであれば、社会学者としては、どんな職業の方だとか、属性などが気になるので、その辺りもぜひ押さえて頂きたい。

○確かに女性だけ防災講演会に来てください、リーダーを育成しますというのは、少々排他的な面もあるかもしれない。定年退職した男性も、結構元気な人いっぱいの方も多いので、そのような方にも一肌脱いでもらいたいという想いもある。

○団塊世代の男性達の持つポテンシャルも生かして、そのようなムーブメントの中で女性リーダーも育てるということの狙いを明確にしたい。

○被災避難所の運営なども、現実にはないもの、足りないことが沢山ある。そういう避難所経営、運営のノウハウについて議論したことがあるが、例えば授乳のためにこういうのが必要とか、男女や障碍者、マイノリティ等の視点も踏まえて、どんどんインプットできるような体制があるかも大事である。

○地域防災計画の策定は。

◇多摩市も策定済である。さきほどの市民防災会議の意見をいただいて、基本的には市のガイドラインや避難所対策マニュアルを策定している。

○事務局に伺いたいが、避難所運営マニュアルを行政向けに策定し、市民向けにも出している自治体があるが、多摩市は市民向けに作っているのかどうか。あと、そのマニュアルには、ジェンダーの視点をすでに組み込んでいるのかどうか。

○それ待っている間に、先ほどのお話で防災安全課と女性センターの主催講座について、企画の差別化を図っているようだが、参加者がそれぞれ排除的になるようなことはないのか、序内のこととは良く分からぬが、両者の連携が次のステップに進むための課題についても記述出来たらよいかと思うが。

◇いま避難所マニュアルについては、市民向けのものが発行されている。元となる地域防災計画の改定も今後予定される中で、防災安全課の連携も以前よりも強まっているところもあるので、例えばこういう審議会の意見等を今後伝えることもできると思っている。女性の視点も含めた、災害弱者も含めたところをしっかり取り組んでいきたい、具体化していきたいという意向かと思うが。

○防災計画や方針としてはすでにされているようなので、計画と絡めて女性センターのあり方も含めて、今後取り組んで頂きたいと思っている。

- 周辺地自体との連携はどうか。DV被害の方を他の自治体に逃がすような。
- ◇特に特定の自治体と協定等を結んでいるということではない。そこは通常の中の連携で、その方が1番過ごしやすい自治体や施設への移動となっている。
- 広域的に連携して取り組みを行っているというのは、DVの関係ではないが、若年層の性的マイノリティの関係で連携して支援事業は行っているところである。
- まずは、今現時点で連携しているところと、少しその解釈を拡大させて、いざ災害が起きた時に広域で何か連携できるような取り組みをしてはどうか。
- ◎そろそろまとめたいと思うが、先ほど申し上げたような評価項目とした上で、女性センターが関与して行ってきたこれまでの取組であるとか、あるいはその強みをきちんと評価をする、その上で課題として見えてきたもの、1つは、市の職員人事について、やはり優先的にここで女性職員を配置するということを取り組んでほしいという。それから、女性に参加者を絞っているデメリットと、部署間の事業の差別化というよりも、もう1歩進んだ協力関係を進めて頂き、さらに広域支援についても改めて確認をする。そしてそういった取組を通して、そもそも女性リーダーの育成について、財源の問題や動機付けの部分などにも触れ確認する。
- 女性リーダー研修についても、女性のみへの働きかけというだけではなくて、男女平等ではなく男女が公平な立場で、必要のある研修に手厚くしていく視点が必要だと思う。
- ◇確認であるが5点、柱が出たかなと思う。③のところについてだが、1つは女性職員の配置についてというところで、これはもう完全に今0なので、それについて引き続き要求する、ということが1点と、次に防災講座の女性参加者を増やすという観点になると思うが、男女を分けないというところが先駆的であるというご意見と、逆に女性に視点を絞ったというところも重要という両方のご意見もあり、審議会からは総括としてどのような意見とするか。現状は、防災と女性センターでそれぞれ1回ずつ、お互い共催として市民向けの防災講座を実施している。両者の差別化というか、逆に市民からすると、年に何回も防災講座聞きに行くという方は非常に熱心な方だと思うので、例えば1年に1回は聞きに行こうとする際に、同じような講座が開催されるよりも、女性視点の防災講座であるとか、色がある方がPRになるのではないかという視点もある。
- 女性センター主催の事業は、女性視点を押し出すというのはやっぱり取り入れた方がいいのではないか。
- 逆にそのような女性向けの講座にも男性も来てくださいと。女性に向けて「盆栽を知ろう」という講座を開催するような。

◇3つ目として、広域連携、近隣市連携というところが出たが、多摩市でも災害のあつた能登半島に派遣職員を出しているので、そういう全国的な市の繋がりというのはもちろんある上で、その上で、例えば稻城市であったり、近隣でのそういった連携があるのかわからないので確認はさせていただき、ある場合にはそれを引き続き検討を進めて、多摩市だけのことではなくて、エンパワーメントするような感じに、そういうところにも目線を広げてくださいというメッセージに繋げるような形でよいか。

○広域連携への対応と避難所運営マニュアルについて、順番は前後するかもしれないが、記載を行いたい。市民への周知を引き続き行い、さらにジェンダー視点に立った内容であるかという所も重要であると思う。

◇完全に女性視点の男女平等の視点に立った個別マニュアルの必要性についての意見もあったが。

○例えば考えてみて頂きたいという提案である。

◇ご提案については、先ほど地域防災計画も存在する中で、検討というレベルでお願いできればと思うが、常からその災害対策には女性センターの役割が重要であるということが言われているので、女性センターの役割を中心に据えた、取り組みの対応策なりを検討できないかというご提案と受け止めてよろしいか。

○あと最後に、全般的な地域リーダーの掘り起こしはもちろん行っていくということだが、多摩市は元々女性リーダーが地域に立つことが多い地区である。なので、その辺りは、読んだ方が違和感を覚えないように、地域活動における女性リーダー、地区委員の会長は女性であることが多いので、記載をして頂くとよいと思う。

○それらのリーダーの仕事ありなしなど、属性についても知りたい。

○既にある女性リーダーが頑張ってくれている分野についてはエンパワーメントをしつつ、逆に少ない分野というのはもちろんあり、それが今回防災でピックアップした部分であるが、すでに女性消防団が健闘している現状もあるので、あんまり全体的に女性リーダーが少ないという批判には持っていかず、すでにある好事例は認めつつも、それ以外の分野でも足りない分野の女性リーダーの育成は頑張ってもらいたいという帰結で描くのはどうか。

○どの分野でも団体の若返りは課題であるけれども。

○男女問わず多摩市の担い手は本当に高齢化が進んでいるので・・。

○あえて言葉にすると「持続可能な女性リーダー」ということになるのか。

○表現に違和感はある。

○デジタル分野に限らず、跡継ぎがいない問題は、男女に限らず少なくない問題であると思うが。

◎では「最後に」というまとめに入りたい。

◇事務局から委員からの意見を受けた変更部分について説明

[委員一同：了承]

◎頂いた宿題を受けて、委員としても提言の推考を続けたい。

◇委員にご相談だが、例年審議で、提言のすぐ後の審議会で「市の考え方」のご提示をしているが、今年度については、内容的に一旦、事務局としても受けとめて、計画改定の内容も来年度控えているので、一定程度そこにも入れ込む必要があるのかなと。今回、特に災害の部分などについては、すぐにここでお返しするのではなくて、来年度の内部評価もしくは来年度の計画改定の中に生かして、そちらで取り組みの報告をさせていただきたいと思っているが、このあたりはいかがか。

[委員一同：異議なし]

◎そのようにお願いしたい。

3 今後の日程について

◇第4回を10月3日（木）午後3時～予定している。よろしくお願いしたい。

以上